

プロジェクト名称	医療都市・医療交流サロン
現状(問題点,背景)	おおつ野地区は土浦ニュータウンとして商業・業務施設、都市公園を有した職住近接を目指した市街地である。しかし、工業地域への工場誘致は難航していて構想実現には程遠い状態にある。現在中心市街地にある土浦協同病院がおおつ野地区へ移転することが決まっている(平成 27 年 6 月完成予定)。おおつ野地区への公共交通は土浦駅からのバスのみとなっている。 現在、土浦協同病院附属看護専門学校は神立駅から 2.5km ほどの場所に位置しており、中心市街地の病院や医療施設を実習施設として利用しているが立地的に便利とは言えない。
目的・趣旨	医療施設を集積させて医療福祉に特化させたまちを目指す。また、医療研究・教育においても先進的な場所とすることを目的とする。土浦市に留まらず県南地域の医療拠点となることを目指す。施設間での連携が円滑になり医療発展とともに医療サービス向上を図る。
内容	内容 1: おおつ野地区の工場誘致予定地に医療施設を誘致する。 ○土浦協同病院附属看護専門学校の移転 - 協同病院と一緒に移転させることで実習施設を近接させて医療教育の充実した環境を得る ○医療関連施設の誘致 - 協同病院移転予定地の周りにアニマルセラピー施設、リハビリセンター、新薬開発や福祉ロボット研究所などを誘致して医療サービスを充実させる。また、おおつ野地区のすぐ南にある上大津東小学校でアニマルセラピーに活かせる学校飼育が容易な熱帯魚や金魚の飼育を行ってもらい、施設で活用する。 内容 2: 医療交流サロンを病院内に併設する。 ○一般公開医療講座 - 新人医師や専門学校の学生が実習を兼ねた公開講座を一般に向けて行う。医療サービスを提供する側だけでなく、受ける側にも医療について学んでもらう場とする。 ○情報共有 & 憩いの場 - 講座を聴きにきた人、病院利用者・関係者など誰もがくつろいで会話を楽しんだりできる空間とし、病院利用者や市民は気軽に意見や要望を医療従事者に伝えることができる。また、協同病院周辺の医療系の施設の情報の掲示も行う
将来目標	医療サービスを提供する側だけでなく、医療サービスを受ける側も医療について理解や関心の深い地域となることを目標とする。
期間	平成 25 年～ 誘致開始 平成 27 年 6 月以降～ 運営開始(協同病院と同時期)
場所	おおつ野地区
対象者	土浦市民、病院利用者
運営主体	医療交流サロン: JA 茨城厚生連、協同病院
運営方法	医療交流サロン: 協同病院と協同病院附属看護専門学校が管理

イニシャルコスト	移転費用、交流サロン準備費用
資金源	JA 茨城厚生連、民間
ランニングコスト	運営維持費
資金源	土浦協同病院
今後の課題	施設を移転してくると費用がかなり必要。移転跡の利用方法や機能はどうするか。